

2015 年 9 月 18 日

福島みのり（常葉大学 講師）

はじめに

常葉大学外国語学部の福島です。私はロストジェネレーションに属する世代ですけれども、90 年代後半から 2000 年にかけての就職超氷河期という時代に大学卒業を迎えました。韓国も 97 年に IMF 経済危機が起こり就職難の時代となり、2000 年以降は新自由主義政策による状況がグローバル化していきます。それまで日本と韓国の社会変化には若干の時差がありましたが、次第に同時代的な社会変化を経験するようになっていきます。そうした状況の中で、お互いに同じような問題意識を持っている若者にインタビュー調査をし、日韓比較研究を行ってきました。私はどちらかといいますと、文化的な側面から若者の社会運動を分析し、またライフスタイルという現在の若者を読み解く視点から研究を行っています。本日は、グローバルな現象の中で韓国の若者がどのような経験をしているのか、またその状況を通じて日本の若者問題とともに考えるきっかけになればと思っています。

A: グローバル戦略としての就職活動

今日本で得られる韓国関係の情報というのは、韓流と日韓関係あたりが中心かと思います。あとサムソン、少女時代、「チャングムの誓い」、LG、そして「スノーピアサー」はポン・ジュノ監督という世界的に有名な方の映画ですが、セリフはすべて英語であり、最初からハリウッド進出を考えて作られた映画と言われています。

企業もグローバル化していて、競争力もあるという華やかなイメージがあると思いますが、いろいろな若者の現状を見ると、かなり過酷な現実があります。それをまず一緒に見ていきたいと思います。大学生活や就職活動などは、意外に日本に情報として入ってきていないため、簡単に説明させて頂きたいと思います。

I 韓国の大学生活

1) 「20 代の悩み」とは？—スペックとスタディカフェ

「20 代の悩み」とは？ということで、アンケート調査の結果が出ています。日本と似ていますけれども、3 割近くが進路・就職、11.8%が結婚・異性との交際、10.9%が学費・生活費、それから 9.5%が勉強という形になっています。要は日本同様、就職に関することが一番大きな比重を占めていることになります。

どんな大学生活を送っているのかというところを、見ていきたいと思います。韓国の就職活動というのは、よくスペックと言われていますが、もともとはコンピューター用語だと思いますが、TOEIC とか学校の成績とか資格をどれだけ持っているかということの数値化したもので、高ければ高いほど良いというものです。スペックを上げる勉強をするためにスタディカフェというものも存在します。今韓国では TOEIC を見ても満点が続出するほどで、TOEIC の点数が 900 点というのはめずらしいことではありません。結局 TOEIC で誰かが 900 点を出したら、もっと上を目指さないといけないし、一生懸命やっても点が上がらないと自分自身に苛立っている若者もいます。

それから、「母親の友達の子」「母親の友達の息子」という言葉があつて、「オムチンタル」と「オムチナ」と言いますけれど、親が「誰々さんの娘さんはこんな良い所に就職した」と「息子さんはここに入ったんですって」みたいな話が、厳しい就職を前にしている若者にとっては耳の痛い話ということが言われています。

いわゆる就職準備の勉強のためにスタディカフェというのがあるわけですが、そこにみんな集まって一緒に勉強します。各自 15 分間ぐらいプレゼンテーションをして、お互いに批評しあっています。

2) スペック (SPEC)

先ほどもお話ししましたが、スペックとは大学の成績、英語、パソコンなどの資格、留学、ボランティア経験の有無、その他の実績等を数値化したもので、スペックが高いほど就職に有利と言われています。大学成績は、韓国の場合 S や A の割合がパーセンテージで決められており、高校と同じように相対評価のため就職に影響しますので、皆さん図書館などに朝から通いつめて一生懸命勉強している人たちが多く見られます。

II 厳しい就活：潜在的失業者としての学生

1) 教育と労働市場間の不一致

どうしてこんなに勉強するのかということですが、やっぱり就職がかなり厳しいからです。教育と労働市場間の不一致というのが主な原因ですが、資料 (1) のように大学進学率も今は 72.5% となっています。日本は大学進学率 5 割ぐらいです。ただ日本も高等教育段階への進学率という観点から見ると、日本は専門学校がかなりたくさんあるので、7 割ぐらいの若者が何らかの形で高等教育段階に進んでいるという意味では似ているのかなと思います。それに対して資料 (2) のように、韓国の大卒の就職率というのは 55% ぐらいでかなり厳しい状況になっています。

2) 青年失業率

次に資料 (3) のように、青年失業率はだいたい 10% ということで、一般の失業率のおよそ倍ぐらいと言われています。ただ、実際このような数値にカウントされない人がたくさんいるわけで、よく「潜在的失業者としての学生」と言われますが、日本に比べれば学生数が多く在学期間もかなり長いです。

3) 休学する若者と大学在籍の長期化

資料 (4) は休学している人たちの割合ですが、平均が 22.83% ということで、5 人に 1 人は休学をしていることになります。日本は休学をほとんどしませんが、日本との違いと言えば、韓国は休学中授業料を払う必要はありません。ですので、休学をしてアルバイトをしたりとか、スペックのために資格試験の準備をしたり、留学をしたりという人たちが多くみられます。平均 5、6 年くらい大学に在籍するのは当たり前だと思います。日本は単位を落としたりすると留年という言葉で表現されることから、何か問題があるのではないかという捉え方をしますので、そこが日韓の相違点かなと思います。休学する理

由というのは様々で、各種資格試験とか公務員試験の準備、語学留学、大学授業料の準備、また男性の場合は兵役がありますので、卒業年齢は平均 27 歳か 28 歳になります。

Ⅲ 就活をめぐるさまざまな格差

1) 公務員・大手企業を志向する若者たち

「就活をめぐる様々な格差」ということですが、まず一つ言えることは、公務員や大手企業をめざす若者がかなり多くいます。採用数はかなり減っており、それに対して志願者はすごく増えているため、資料（5）を見ると 93.1 倍という数字が出ています。

2) 韓国の就活

次に、韓国の就職は具体的にどのように行われるのかということを見ていきたいと思います。日本というのは新卒一括採用で、東大の本田由紀という社会学者が「一度しか来ない列車」と表現したことがありますけれども、日本はその列車に乗り遅れると、永遠に正社員としての職が得られない、フリーターや非正規で就職してしまうと、その後なかなか正社員になれないという現状があるわけです。また、日本の場合「履歴書に空白を作ってはいけない」などと言われたりしますが、韓国は日本のように硬直化しているわけではありません。新卒採用は年に 2 回、9 月と 3 月に行われる場合が多いです。履歴書、自己紹介書、資格証など書類審査をし、各企業独自の採用試験、それから面接、追加試験という流れになっています。英語の面接は当たり前で、外資系だけではなく、一般的にも行われています。韓国ではなぜここまで英語が重要視されるのかと言いますと、韓国経済は輸出主導型で 6、7 割ぐらい外国との貿易に依存しているということが一番大きな理由だと言われます。

3) 大手企業に集中する就職活動

大手企業に集中する就職活動ですが、大手企業といえばサムソン、現代自動車、LG、KT、大韓航空、それからアジアナなどがあげられます。2013 年度は新卒募集の合計が 2 万人に対して、応募者が 40 万人となっています。具体的にいくつかの例を見ますと、サムソングループは募集 5,500 人に対して応募が 10 万 3,000 人、現代が 1,200 人に対して 10 万人、KT が 300 人に対して 4 万 5,000 人、計算するとかなりの倍率になると思います。サムソン、現代などは、独自の採用試験があるので、その対策のための就職塾に通う大学生たちもいます。

4) 公務員の倍率年々上昇(ドキュメンタリー視聴しながら)

大手企業とともに、公務員ももちろん人気があります。2013 年ですが、9 月に行われた公務員試験の競争率が、国の事務職公務員が 74.8 倍、ソウル市公務員が 87.1 倍となっています。そして、9 月における 15 歳から 29 歳の雇用率は 39.9%となっています。(ドキュメンタリー視聴しながら) かなり狭き門ということで、韓国は公務員試験の準備をするために、ノリャンジン考試村(公務員試験のことを考試というのでそう呼びます、)というソウルのある地域に若者たちは集まり、皆さん予備校に通い、ここで寝泊りして住んでいる人た

ちもかなりいます。苦学生たちがいる場所なので、かなり安い値段で食事をすることができます。1 畳か 2 畳ぐらいの場所に、月 3 万円ほど払い、予備校の近くで寝泊りしながら勉強しています。ドキュメンタリーでは、「ノリャンジンってどんな場所ですか」という質問に対して、「夢を成し遂げる場所」「戦場のような場所」などと答えています。ここは明け方の 4 時半ぐらいから 1 日が始まります。すぐに予備校に行って勉強しないといけないので、簡単に食べられるものということでおにぎりとか食べていくわけです。人数も多いので良い席を取るために、朝から並んでいます。

年齢が高い人たちも多くいますね。25 歳とか 28 歳で警察公務員を目指している男性もいます。毎日 3 時間半しか寝ていないです。ようやく予備校の門が開くと、すごい勢いで階段を駆け上っていき一番前の席を取ります。ここまでで一苦労という感じです。今日は授業が 8 時間あるとある男性が話しています。それだけ勉強して合格すればいいですけども、30 歳になってもずっと予備校に通っている人たちもいます。

5) 就業をめぐるさまざまな格差

なぜ大手企業とか公務員を目指すのかというと、まず一つは中小企業と大企業でかなり給料の格差が見られるからです。それだけではなく、福利厚生などの面においても格差が見られます。大手企業であれば日本円で初任給 334 万円、中小企業だと 221 万円であり、113 万円の差があります。零細企業などが多いので、日本の中小企業よりは少し低いと思います。また企業の規模だけではなくて、正規職か非正規職かという部分も重要で、非正規職は正規職の 50%か 60%ぐらいの賃金です。ですので、どうしても公務員とか大手企業を目指す若者が増えてしまっているというのが現状です。

IV 海外就職に乗り出す若者

1) 留学先での就職をめざす若者

日本は海外に留学する若者は少なく、よく内向き志向なんて言われていますけれども、韓国は皆さん外を向いていますので、大学とか大学院で海外に出る若者は多いです。資料 (6) で、海外に留学している若者の割合を見ると、留学者数だけで見ると、中国、インド、韓国という順番になっているのですが、人口比で見ると韓国が一番多いということになります。

2) 韓国人の留学先

資料 (7) では、韓国人の留学先としてアメリカが一番多いですが、つづいて日本、カナダ、イギリスという順になっています。例えば日本の場合は、1 年間の留学でも、卒業が延びると就職に響くので躊躇する若者が多いですが、やはり新卒一括採用というのが影響しているのかなと考えます。

D: 若者世代の社会運動と代案的な働き方への模索

韓国はやはり競争が激しいので、芸能人でもかなり自殺者が多いですし、大学受験に失敗した学生が学校の屋上から飛び降り自殺するということがよく聞かれます。資料(8)の写真は、タワーパレスのような高層マンションですけれども、前はバラックで貧困層が住んでおり、この写真は格差を象徴しています。資料(9)は、そういった中でデモを行う人々たちです。資料(10)のイラストはキログアッパを描いたものです。キログとは渡り鳥という意味で、アッパというのはお父さんという意味です。先ほどの英語の重要性との関連で、小学校の時に母親と子どもでアメリカとかカナダなどに2年間ほど滞在し、父親だけが韓国に残って一生懸命お金を稼いで仕送りをするという現象もあります。

I 『88 万ウォン世代』論の登場と当事者による社会運動と文化的実践

『88 万ウォン世代』は今でもよく言われますけれども、ウ・ソクンという経済学者が『88 万ウォン世代』という本を書き、これが人文書籍としてはかなりのベストセラーになりました。この数字は 20 代の若者の 1 ヶ月の平均給与を表していますが、若者の非正規職賃金がおおよそ「88 万ウォン」ということでネーミングされました。著者は、これまでは若者の就職難が自己責任の問題として捉えられてきたことに関して、これは世代間格差をはじめとした韓国社会全体の構造上の問題と関連している点、さらにグローバルな危機、新自由主義政策による産業構造・世代間・階級間格差が影響しているということを本書で指摘しています。本書が出る前に、イタリアで『1000 ユーロ世代』という本が出たのですが、ヨーロッパでも青年失業率は 30%を越えるぐらいの勢いです。それで、イタリアでも 1000 ユーロで何とか生活している若者のブログが話題となり、それが一冊の本になったものが『1000 ユーロ世代』なのですが、この本は日本でも翻訳されています。そこからヒントを得て著者は『88 万ウォン世代』とネーミングしたわけです。

1) 声を上げ始めた若者

このネーミングに関しては、20 代の若者を数字でネーミングするなんてとんでもないという意見がありましたが、自分たちのおかれた状況は自己責任だけではなく構造上の問題があるという認識が広がり、その後さまざまな形で若者が声を上げ始めるようになりました。

① キム・エスルの自主退学宣言

資料(11)はキム・エスルの自主退学宣言でかなり有名です。彼女は高麗大学に通っていた学生ですが、2010 年 3 月 10 日、キャンパスに「今日、私は大学をやめます。真理も友情も正義もない死んだ大学であるから」という壁新聞を貼り自主退学宣言をしました。結局、大学に入っても就職活動のために常に競争にさらされているわけで、そこには大学や企業、国家が結託し若者を苦しめているわけで、そこに怒りを感じ大学をやめるという選択をしたのです。キム・エスルの自主退学宣言は韓国社会に衝撃を与え、その後を追って大学をやめた若者もいます。しかし大学の教授の多くは沈黙を保っていました。なぜなら自分の職が脅かされるかもしれないという不安もあり、これを支持することはなかなか厳しいのが現状で、結果大人が批判されたりもしました。自主退学後、キム・エスルは市

民団体で働きながら生活をしていますけれども、一度もメディアに出てこないという点が評価されています。ただ彼女が高麗大学であったから注目されたわけで、無名の大学の学生が「私は大学をやめる」とか言っても全然注目されないわけで、この点において学歴格差の現状が批判されたりもしています。

② 授業料半額デモ

もう一つは授業料半額デモです。当時、李明博（イ・ミョンバク）大統領が授業料を半額にすることを公約に掲げていましたが、大統領になった後それが守られていないということで、若者たちが声をあげ始めたということが背景にあります。資料（12）は、国公立の大学の年間授業料の表ですけど、アメリカが一番高く、韓国、日本、フランスという順番になっています。ただ気をつけなければいけないことは、韓国も日本も大学のほとんどが私立なので、これだけ見るとアメリカが一番高いことにはなりますが、実際は日本や韓国の授業料がより高いという現実があります。韓国も年間の授業料が 1000 万ウォン時代となり、大体 100 万円くらいです。日本とあまり変わらない状況になっています。その間、高額な授業料に異議を唱える数多くのデモが若者によって行われました。女子学生が髪を全部切り、坊主にしてしまうという衝撃的な抵抗の意志表示をし、李明博大統領に対する抗議ともいえますが、授業料半額にしてほしいということと、就職問題を解決してほしいということを主張しました。

また、韓国ではソーシャルテナーと言われている人たちが最近注目されています。日本では芸能人が政治的な発言をすると批判されたりします。韓国の芸能人の方々は、自分たちが社会的な責任を負っているという意識が高いので、若者の集まりに出向いてともに闘おうみたいな行動を積極的に行っています。芸能人が動くマスコミも注目し、授業料の問題だけでなく、不当解雇された労働者の問題なども、芸能人が一緒に闘うことによって、非難の対象となった企業も都合が悪くなり、結果復職させるということが行われています。政治を変えるという意味で芸能人の役割は大きいと思いますが、こういう人たちのことをソーシャルテナーと言い、ソーシャルとエンターテナーの合成語からきています。

③ 政治的な動き

青年ユニオンや青年党を結成する動きなども出てきました。青年ユニオンは韓国で初の世代中心の労働組合ということで、若者の雇用改善運動などを行っています。例えばデリバリーピザですが、「注文してから 30 分以内に配達します」という謳い文句があるため、アルバイトの青年がオートバイに乗って事故を起こすことが頻繁にあります。こうした問題に対して、青年ユニオンが中心となって「30 分以内にピザを配達するという営業は廃止せよ」などの運動を行い、ブラック企業脱出運動やソウルの若者たちの「未払い賃金を返還せよ」運動を積極的に行っています。ただ、青年党の場合、2012 年の時に大統領候補であった人が若者世代のための政策を推進できるようにということで結成されましたが、その候補者が当選しなかったので解散してしまいました。

2) 大衆文化の中における若者の声

あとは、20代の生き様を描いた小説や、インディーズバンド「チャン・ギハと顔たち」などは若者の声を代弁する歌を歌っています。このチャン・ギハという人はソウル大出身で、普通に良い所に就職できる道もありましたが、一般企業に就職するよりはバンドを続けて20代の生き辛さといったものを歌に託して活動していくと決意し、今では人気歌手として活躍しています。

Ⅱ 若者の民主主義

1) 18代大統領選挙（2012）

もともと韓国は日本に比べれば、政治意識は高いと思いますけれども、最近徐々に投票率も下がってきています。2012年の大統領選挙は、世代によって投票する大統領が二分化されたという点でかなり注目されました。資料（13）はその時の投票率が、20代 65.2%、30代 72.5%、40代 78.7%、50代は80%以上、60代以上が 78.8%という結果でした。この時、朴槿恵（パク・クネ）候補と文在寅（ムン・ジェイン）候補が対立しましたが、文在寅は福祉や若者の雇用を公約に掲げたのに対して、朴槿恵は経済成長による不動産価格の上昇を補償するという形で、既に財を持っている既成世代向けのキャンペーンを行ったわけです。そこで若者の多くが文在寅に投票した反面、年配の人たちの多くは朴槿恵に投票しました。資料（14）のように文在寅は20代、30代の支持率が高い反面、50代、60代になると朴槿恵の支持率が高くなっています。さらに、少子高齢化による人口比の差により、年配の世代の人たちの意見が社会に反映され、若い人たちの意見がなかなか反映されないという現状が見受けられます。

2) ソウル市長に元市民運動家の朴元淳当選

資料（15）の写真はソウル市長の朴元淳（パク・ウォンスン）です。朴元淳氏は、ソウル市立大学の学費を半額することを公約に掲げて、若い人たちの支持を得て当選しました。その後、本当に授業料が半額となりみなが驚きました。さらに、半額になったことがどういう結果をもたらしたのかといいますと、それまでは例えば高麗大学とソウル市立大に合格したら、大体高麗大学に行っていたわけですが、ソウル市立大を選択する学生が増えた結果、大学のレベルが急上昇したことがあげられます。半額にすると教育の質が落ちるのではないかという憂慮がありましたが、教育という部分に関しては影響を及ぼしていないことがいえます。授業料が半額になったので、アルバイトをする時間も短縮され時間に余裕ができて学業に費やす時間が増えたという話もあります。ただし私立大学で高い授業料を払っている人の中では、ソウル市立大学はソウル市民の税金を使っているわけで、自分もそれを払っているので特定の大学だけ半額というのは納得がいかないという意見もあります。

朴元淳ソウル市長は、今でも積極的に若者に対する政策を行っています。例えば若者の交通費を10%割引にする運動、奨学金の返還利子支援、青年ユニオンのワークショップ参加など、さまざまな形で積極的に支援・政策を行っています。

Ⅲ 青年失業問題への省察

1) グローバルな危機・新自由主義政策

青年失業問題は韓国だけではなく、グローバルな危機であり、新自由主義政策による失業、産業構造・世代間格差・階級間格差というものが関連しています。そのような中で韓国では最近社会的企業で働くという新しいライフスタイルを模索する若者が注目されています。社会的企業は、IMF 経済危機以降、非正規職、青年失業が上昇したことを背景に、2006 年に社会的企業育成法が制定され、2007 年から認証社会的企業が登場しています。認証を受けると補助金も出て、ソーシャルベンチャーであるとか、様々な福祉や環境の分野で社会的企業が登場しています。

2) 代案としてのライフスタイル：ノリダン

青年失業問題を解決しようということで注目されている社会的企業として、資料（16）のノリダンがあります。ノリダンは韓国で「遊び団」を意味する言葉で、ノリダンのメンバーは 10 代の若者から 60 代まで計 86 人です。年間約 200 回を数える公演や路上パフォーマンスはいずれも大人気で、ニューヨークや香港などで海外公演も行っています。「好きなことをして世界を変えよう」、そんなポジティブなメッセージを発し、若者雇用や環境問題、地域再生に挑戦する韓国を代表する社会的企業です。かなり成功している例で、廃材とかを使って楽器を作って演奏・公演をし、世界的にもさまざまな場所で活動しています。

今日は若者の就労のことしかお話できませんでしたけれども、韓国で「ハジャセンター」という代案学校があります。10 代の若者は受験戦争などで過酷な状況におかれているので、不登校の学生も多くみられます。そういう学生たちが行くホームスクーリングという所もありますけれども、ハジャセンターは学校的価値に異議を唱える若者が集まっている代案学校です。不登校ではなくて「脱学校」ということで、自分から学校をやめてきたという若者たちが集まっています。IMF 経済危機以降にできた代案学校ですが、要は今の時代、一生懸命勉強してもそれほど良い所に就職できるわけでもないし、もっと新しい主体的な学びを身につけようということで、ソウル市の支援を受けて設立されました。そこでは時間割による授業ではなく、プロジェクト学習・身体を使った学びなどを行っています。そのハジャセンターが 99 年にでき、2010 年になった時期に、それまで若者の問題は学校教育の問題であったものが、10 年後には彼らが 20 代を迎える中で、どう食べて生きていくかという就職の問題が浮上したわけです。既存の狭いパイを奪い合うような競争をするよりは、自分たちで新しい仕事を作ろうということで、社会的企業という形でノリダンが生まれてきたという背景があります。本当に人口比で見れば数パーセントですけども、こういう新しい動きも徐々に出てきています。

以上